研究テーマ こども・若者のメンタルヘルス

所属 学術研究部人文科学系

講師 飯島有哉
https://researchmap.jp/iijima_yuya

研究分野	臨床心理学、教育・学校心理学、自殺予防学
キーワード	学校カウンセリング、賞賛行動、ストレス、自傷行為、自殺予防

研究室URL： https://archive.has.u-toyama.ac.jp/labo/985/

研究の背景および目的

学校カウンセリング学研究：“学校期”における心理臨床的な課題に対する理解や支援について、スクールカウンセリングの実践知もふまえながら研究を進めています。

学校期とは「子どもを見守る大人の存在が、子どもの心身の発達に重要な意味をもつ時期」であり、おおむね幼児期から思春期・青年期（大学生を含む）に該当します。学校期にあたる児童生徒・大学生だけでなく、保護者や教師をはじめとする周囲の大人も研究対象としています。



■主な研究内容

A）児童生徒をほめることに関する研究：

教師が児童生徒をほめること（賞賛行動）について、ほめられた側の効果はもちろん、ほめる側の　効果についても研究をしています。具体的には、賞賛行動が教師自身にどのような効果があるのかや、どのようなほめ方が児童生徒にとって受け取りやすいのかについて研究をしています。詳細は右QRコードのwebサイトよりご覧ください。
（ https://www.u-toyama.ac.jp/future/hmt-research_iy/ ）

B）こども・若者の自傷行為および自殺予防に関する研究：

こども・若者の自傷行為（リストカット，過量服薬など）について、認知行動科学に基づいた適切な理解や、支援方略について研究をしています。また、自殺リスクの高い集団の実態調査や、教職員が行う支援についての研究も行なっています。

C）児童生徒のストレスおよび援助要請に関する研究：

児童生徒の心理的ストレスや、さまざまな形で発せられる児童生徒の援助要請（困った際に助けを求める）行動についても研究を行なっています。

期待される効果・応用分野

学校という場を中心とした、こども・若者およびその周囲の大人（例：保護者，教職員など）のメンタルヘルス向上への貢献が期待されます。応用には様々な形や可能性がありえますが、具体例としては以下のようなものがあげられます。
・自殺予防教育（SOSの出し方教育、ゲートキーパー養成研修）、心の健康診断ツールの開発
・教職員研修、支援者研修、保護者向け講座、教材開発、セルフヘルプツールの開発

■共同研究・特許など

・「SOSフィルター」（特定非営利活動法人OVA）への専門家助言
・「子育ての分野における母親向けのメンタルヘルスに関わるサービス開発」（小野薬品工業株式会社）への専門家助言

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/yuya-iijima/